

3. 課題別研究プロジェクト報告（6月22日）

③【テーマ】学習者のエンゲージメントを高める言語活動のデザインと指導

15:10～17:10 第8室

代 表 : 藤田 卓郎 (福井工業高等専門学校)
共同発表者 : 青山 拓実 (信州大学)
天野 修一 (広島大学)
上田外史彦 (金沢学院大学)
櫻村 祐志 (明治大学大学院生)
河合 創 (福井大学教育学部附属義務教育学校)
菊原 健吾 (松本大学)
山田 慶太 (豊田工業高等専門学校)
Li Olga (富山県立大学)

1年目の発表では、エンゲージメントの概念やこれまでに明らかにされているエンゲージメントの知見について明らかにし、教師が考えるエンゲージメントと理論的側面との類似点・相違点について考える。

第1発表 (天野・櫻村・Olga) : 英語教育実践のなかでエンゲージメントを考えるために

第1発表では「英語教育実践のなかでエンゲージメントを考えるために」と題し、教育全般におけるエンゲージメントと第二言語学習におけるエンゲージメントの研究をそれぞれ短く概観する。まず、エンゲージメントを感情的、行動的、認知的、社会的の4つの類型に分け、これらがどのように学習に作用すると考えられているかを説明する。続いて、第二言語学習におけるエンゲージメントの特有の課題についても考察する。最後に、動機づけとエンゲージメントの相違点についても検討し、それぞれの影響を論じる。この発表が後続の発表の理解を助け、英語教育実践におけるエンゲージメントを考えるきっかけとなることを期待する。

第2発表 (青山・菊原・上田・山田) : 第二言語学習におけるエンゲージメント研究のアプローチ : 理論と実践の視点から

第2発表では、研究手法の側面から第二言語学習におけるエンゲージメントについて概観する。はじめに、Hiver et al. (2024)による過去20年間のエンゲージメント研究に関するシステムティックレビューに基づき、これまでの研究におけるアプローチを紹介する。次に、本プロジェクトに関連するいくつかの研究を取り上げ、それらの研究について紹介することを通して、学校現場におけるエンゲージメントについて研究手法の観点からレビューするとともに、エンゲージメントの高まりによって期待される点について、実践の視点から議論する。最後に、本プロジェクトが目指す理論と実践の連携に向けた課題点について整理し、発表のまとめとする。

第3発表 (櫻村・青山・上田・河合・藤田) : 実践者が捉える英語学習者エンゲージメント : 理論と実践の往還に向けて

第3発表では、実践者が捉える英語学習者エンゲージメントについて、理論との類似点・相違点を探ることを目的とする。具体的には、実践者(教職系の大学院生)が日本の中学生を対象とした英語授業を観察し、エンゲージメント

の要素として認知するものが、第1発表で議論された定義及び第2発表で議論された先行研究とどの程度一致し、異なっているのか検討する。その際、Hiver et al. (2024)による操作化を参考にしながら、質的コーディングを実施した。インタラクション（行動的）や、英語が得意な生徒が苦手な生徒を助ける（社会的）といった共通点が見られる一方、「炫き」など先行研究であまり扱われていない要因が明らかになった。以上より、エンゲージメントの理論と実践の往還に向けた今後の課題点について議論する。